

リビングマッチが調査

不動産関連の比較査定サイト「リビングマッチ」を運営するリビン・テクノロジーズ(東京都中央区、川合大無社長)は2月26日、同サイトの利用者で自宅を所有する50歳以上の男女全国273人を対象に「自宅のバリアフリー化」について調査した。

自宅バリアフリー調査

か?」を聞いたところ、50代・60代で最も多かった回答は「まだ考えたことはない」が全体の4割を占めて、最も多く、70代以上が最も少ないと、また、「必要ない」と思っているは年齢が上がるにつれて割合が増えていた。

70代以上で「今後必要だと思っている」は、全体で23・4%となり、50代22・1%、60代22・8%、70代以上29・3%だった。

「既にバリアフリー化している」は全体19・0%と2割近くおり、50代18・3%、60代20・8%、70代以上17・1%だった。60代が50代45・0%、60代38・6%、70代以上26・8%となつた。

「どのようなバリアフリー化をしたか?」では、「手すりの設置」(57・7%)と「床の段差解消」

50代以上、対応済み2割弱

(55・8%)が半数を超えた。次いで「洋式トイレへの取り替え」(42・3%)や「トイレスペースの拡張」「浴室暖房機(ヒートショック対策)」(共に30・8%)、「玄関や廊下などの幅拡張」(26・9%)となつた。補助金や減税などの優遇制度を「利用した」(19・2%)は2割弱にとどまり、制度が使えることを「知らなかつた」(50・0%)が半数を占めた。